

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野西中学校】

⑥	次年度への課題と改善策
知識・技能	全体的に、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要がある。「アクティブ・ラーニング」型授業を推進し、「習得→活用→探究」の3つの学習レベルがあることを意識したうえで、単元や内容のまとまりのなかで生徒の支えとなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ってほしい。また、SSSPを推進していく中で「学び方」「教え方」、スクールダッシュボードの活用の仕方を全教職員で重点的に研究していく。
思考・判断・表現	市学習状況調査では、無回答率が高い項目が各教科において見られたため、資料の活用、自分の考えを効果的に伝える工夫、問題を解く過程を解釈する活動などに重点を置き取り組み、自己肯定感を高め生徒の無回答を減らす授業改善を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「学ぶことや働くことの意義を考えたり、今、学校で学んだこと、自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が81.2%だったため、85%を目指す。キャリア教育を進めることで、生徒自身が見通しをもって主体的に学習に取り組む態度を養う授業改善を行っていく。

①	目標・策	
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、社会の「知識・技能」において3pt向上させる。理科の「知識・技能」において2pt向上させる。	⇒ タブレット持ち帰りの徹底やスタディサブリの効果的な活用を促し、学校で学んだことを家庭学習にもつなげ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指し、反復・習熟を行う。その際、生徒の学習履歴を確認し手立てを講じていく。
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、社会・理科の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。	⇒ 教科横断的な視点として、資料の活用、自分の考えを効果的に伝える工夫、問題を解く過程を解釈する活動などに重点を置き取り組む。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「自尊意識」の質問項目の「①自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっていますか。②自分には、よいところがあると思いますか。」において、肯定的な回答の割合を市平均の2pt以上に上げる。	⇒ 学力と生活習慣等のクロス集計結果より、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を推進し、単元や内容のまとまりのなかで生徒の支えとなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、自尊意識の向上を行う。

年度末評価

次年度に向けて
(3月)

目標・策の設定
(4月)

⑤	目標・策の達成状況	評価(※)
知識・技能	社会の「知識・技能」においては昨年度と比較して+3.2ptであった。理科の「知識・技能」において+2ptであった。タブレット持ち帰りの徹底やスタディサブリの効果的な活用を促し、学校で学んだことを家庭学習にもつなげ、基礎的・基本的な知識・技能の定着ができたと考えられる。	A
思考・判断・表現	社会の「思考・判断・表現」においても、理科の「思考・判断・表現」においても数値の低下がみられた。タブレットやICT機器を使用した、教科横断的な学習を進めることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	「自尊意識」の質問項目の「①自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっていますか。②自分には、よいところがあると思いますか。」において、肯定的な回答の割合はやや下回ったが、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」では大きく上回った。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果・分析
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+2pt、数学-4ptであった。数学のデータの活用をする問題で解答類型を見てみると、無回答で回答する生徒が多かった。
思考・判断・表現	英語の「読むこと」領域において課題がみられた。ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題で無回答が21%と高く、問題の意図や趣旨を理解できず回答を諦める生徒が多いのではないかと考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は49%であった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の定着把握)

④	さいたま市学習状況調査結果・分析
中1	R4年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、国語では、昨年度の値より-1pt、数学では-2ptとなった。R4年度さいたま市学習状況調査の国語について、「我が国の言語文化に関する事項」に課題があり市の平均を下回った。数学については、市の平均正答率と比較し-2ptであった。また、「図形」の項目において、無回答率が高かった。基礎的な学力の向上と共に、無回答率を減らせるような授業改善を行っていく。
中2	R4年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、国語では、昨年度の値より-1.5pt、数学では-1.5ptとなった。R4年度さいたま市学習状況調査の国語について、「我が国の言語文化に関する事項」に課題があり市の平均を下回った。数学については、全体の無回答率が市と比べて高かった。基礎的な学力の向上と共に、無回答率を減らせるような授業改善を行っていく。
中3	自尊意識の項目の「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。」の回答が市に比べて、+3pt高かった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」も+2pt高かった。「理科の勉強は好きですか。」は市と比べて、+6pt高かった。どちらも二年生の時よりも高い結果であり、自己肯定感を高めながら授業改善を行うことができ、生徒も主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

③	中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)	
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 基礎的・基本的な知識の定着だけではなく、データの活用や問題の読み取りの能力・意図を汲み取ることができる指導を行う。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 教科横断的な視点として、資料の活用、自分の考えを効果的に伝える工夫、問題を解く過程を解釈する活動などに重点を置き取り組む。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 学力と生活習慣等のクロス集計結果より、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を推進し、単元や内容のまとまりのなかで生徒の支えとなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、自尊意識の向上を行う。

令和6年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【与野西中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。特に理系の教科では差が大きく開いている。</p> <p><指導上の課題> 知識・技能を習得したり、学習活動で活用したりする時間を多く取ることができていない。</p>	<p>⇒ 「ドリルパーク」や小プリントを活用し、基本的な計算等の反復・習熟、その単元の復習に取り組む【毎授業開始時の実施】。</p> <p>授業中に生徒が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。また、振り返りをふまえ、授業において、生徒とともに必要感のある課題を設定したり、生徒が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で5分程度実施】。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 各教科の「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い。</p> <p><指導上の課題> 生徒が主体の学びや体験を多く取り入れるような授業が少ない。</p>	<p>⇒ 生徒が主体となり、各教科において体験的な活動を取り入れる【単元に1回程度実施】。</p> <p>活動の中にタブレットを用いて共同編集や話し合い活動を行い、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語の「我が国の言語文化に関する事項」の書写の領域において、平均正答率が72.7%で埼玉県と全国の平均を下回っている。ただ書くだけではなく、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動を増やしていく。「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか」の項目の肯定的な回答が90%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。</p>	
思考・判断・表現	<p>数学の「関数」の領域において課題が見られた。関数の計算をして数値を求める問題の正答率が高いが、自分の言葉を使って説明をする問題の正答率は低く、無解答率の割合が高かった。授業でも記述していくような場面を多くとっていく必要がある。「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は約92%であることから、共同編集等、協働的な学びの機会を適宜確保しながら、自分の考えたを伝えたり文章にまとめて説明したりする活動を重視したい。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>「ドリルパーク」や小プリントを活用し、基本的な計算等の反復・習熟、その単元の復習にはほぼ毎授業取り組むことができた。</p> <p>生徒が自らの学びを振り返る時間を各教科で設定できるように学校全体で共有していく。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>各教科において体験的な活動を毎単元に1回程度取り入れることはできなかったので取り組めるようにしていく。</p> <p>活動の中にタブレットを用いて共同編集や話し合い活動を行い、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする活動を徐々に増やすことができた。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)